

第6回 児童・予防精神医学研究会

精神神経疾患の脳内中間表現型 -多因子から共通症状へ至るパスウェイ-

主催：精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部

宮川剛先生は、精神・神経疾患を「脳のシステムの破綻」として捉え、疾患メカニズムの解明や予防・治療法の開発を目的とした研究を行われています。

具体的には、遺伝子改変マウスをはじめとするモデル動物などを対象に、遺伝子レベル・細胞レベル・行動レベルをターゲットに、先端的手法を駆使するインパクトの大きな研究を展開されています。

今回、脳システムの動作原理の理解、システムの破綻のメカニズム、破綻したシステムの正常化、などの視点から、精神疾患の予防にも関連するご研究や今後の展望をお話しいたします。



貴重な機会ですので、お誘いあわせの上、奮ってご参加ください。

日時： 令和2年 1月 17日（金）17:00～18:00

場所： 研究所3号館 セミナールーム

座長： 住吉 太幹 先生

（精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部 部長）

講師： 宮川 剛 先生

（藤田医科大学 総合医科学研究所システム医科学研究部門 教授）

お問い合わせ：児童・予防精神医学研究部

TEL:042-341-2712（内 6347/6237）E-mail：dcrp@ncnp.go.jp